

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホーム ファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800218-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気と施設の中で、利用者様中心の安心安全安楽な生活を送れる場の提供と、職員との信頼関係を構築しつつ、利用者様の思いや意思を受け入れ、毎日を快適に過ごして頂く生活の場を提供いたします。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新型コロナの影響を受け、代表は、海外からの帰国予定が延期となり、管理者が毎週、リモートで報告をしながら、職員のチームワークで、この困難を乗り切っている。新任職員の夜勤については、慣れるまで管理者がサポートに入ったり、常勤でも夜勤免除の希望に応え、働きやすい環境を整えている。県の補助事業を活用しながら、職員のスキルアップ研修を毎年継続しており、今年度は、職員が主体的に考え学べる内容で、7回のリモート研修を実施している。身寄りのない人や家族と疎遠な利用者も多く、職員は家族同様に寄り添いながら関係機関と連携し、支援に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で、意識付けてすべての職員に周知しています。また職員に冊子を配布し、お互いの理念の共有を図っています。	五大理念である「笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開」を挙げ、その実践が日々、出来ているかを職員間で確認している。新任の職員には理念が記載された職員就業冊子を渡している。利用者の笑顔が見られるよう理念を全職員で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺に民家が少なく、なかなか地域との交流が図れないのが現状です。	元々、地域交流が気軽にできる環境ではなかったが、地域とのパイプ役である区長や民生委員、ボランティアの出入りがあった。コロナ禍の今は、それも難しくなり、ほとんど交流が出来ていない状況である。収束後には、少しずつ交流の再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用して、地域住民様 ご家族様に理解や支援の方法などを指導を頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方からの苦情 意見 提案などを真摯に受け止め、速やかに検討を行い、改善に取り組んでおります。	現在、運営推進会議を中止している。特に市から書面報告の要請はないので作成していない。市担当者の指導を仰ぎながら、運営推進会議開催を決めていくとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2～3回程度、介護支援専門員や管理者が市役所介護保険課、土岐市包括支援センターに出向き、情報収集や当施設の情報提供を行っております。	前回の課題であった「利用者の重度化した時の移転先の確保」の件は、行政、主治医、地域包括支援センターとの連携で、特養への入所が実現した。市の担当者は異動も多く、事業所運営の取り扱いが異なる事もあり、報告や連絡を取り合いながら、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの研修や講習、または施設内の研修に参加して職員全体に周知徹底しております。	運営推進会議の中で、身体拘束廃止委員会を行っていたが、運営推進会議が中止となり、身体拘束廃止委員会の議事録はなく、市からの提出要請もない。外部講師による職員研修は、今年度、リモートで対応し、虐待防止、拘束廃絶をテーマに実施し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は積極的に講習に参加し、内容を開示、すべての職員の情報共有に繋がっています。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の講習に参加し、なぜ必要かを理解できるよう、全職員が周知してまいります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と合わせて、契約に関する内容を説明し、納得頂いたうえで、契約をさせていただいております。規約後も随時、疑問点などにお応えしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置 苦情相談窓口の設置 入口にはご意見箱の設置を行い、常時ご意見に対しての対応を行っています。	毎月の「ファミリー新聞」や、往診結果及び身体状況票で、家族に利用者の様子も伝える予定であったが、人手不足で送付を見送っている。県の新型コロナ対策に準じて、家族と利用者の面会を柔軟に行ったり、電話で利用者の様子を伝えるなど、家族からの要望をできる範囲で実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングは月に1度の開催が理想ですが、時間的余裕や人員不足のため、2ヶ月に1度の開催になってしまっているのが現状です。	管理者は、職員の希望や要望に応え、常勤の夜勤免除や、新任者の夜勤には管理者がサポートをするなど、安心して働ける環境作りに努めている。海外から帰国する予定であった代表が、新型コロナの影響で帰国が延期となり、管理者が毎週、運営状況を報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等は、評価項目シートを利用し、評価の高い職員には反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習や研修費用は会社負担とし、積極的に活用してもらうよう、働き掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や病院連携の勉強会に介護支援専門員又は管理者が出席し、意見交流をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や病院でのインテークを行い、ご本人やご家族様からのご意向を伺い、ご本人の安心を確保させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時、または開始後もご家族様との連絡を密にし、不安やご要望に対応すべく、努力いたします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先しなければならない課題を、全職員が周知し、担当者会議などを利用し理解してまいります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳を重んじて、どのような些細な言動も、軽視することなく、共同生活を行っているものとしての関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各季節に合わせた行事を行うことにより四季を感じて頂くよう努めておりますが、コロナウイルス禍の関係でご家族様も面会もままならない日々が続いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス禍の影響で実行不可となっております。	新型コロナ感染予防対策として、馴染みの人との面会や馴染みの場所への外出を自粛している。今後、収束した時には、利用者の家族や知人に声掛けをして訪問を働きかけたり、懐かしい場所への外出支援に取り組む予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わらなくても利用者様同士で楽しく過ごせるような場の提供を整えてまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様がサービス利用終了後も次の他施設との連携を図り、ご家族様の了承のもと開示してまいります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応ができるよう傾聴に努め、困難な場合はご家族様には相談や提案を頂いております。	入居期間が長い利用者も多く、家族以上に職員が利用者の思いや意向を把握している事も多い。利用者の本音を聞き取り、家族に伝えることもある。家族と疎遠になっている人や独り身の利用者もあり、職員が傾聴の姿勢で思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を聞き取りのためには、全職員が一丸となって、収集してまいります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が情報の共有を図り、継続して現状の把握に努めてまいります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、その都度見直し、支援計画を見直してまいります	3ヵ月毎に全職員でモニタリングを実施し、6ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。管理者とケアマネジャーを中心に、職員と意見交換しながら、チームで計画作成を行っている。	長年にわたる支援の慣れからか、ケアを実施しているにも拘わらず、介護計画の基本となる個人記録に未記入の箇所があったり、事故記録も日付けを失念していたりする。今一度、記録の重要性を全職員に周知徹底されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の支援経過を活用し、職員間の情報の共有を図り、支援計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のご要望をすべて支援するには職員数との兼ね合いもあり、実行に移す機会に限りがありますが、インフォーマル等を活用して今後も実施してまいります。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域のインフォーマルなサービスを活用して、個々での外出も楽しんで頂きたいのですがコロナウイルス禍でままならないのが現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本担当医が見える病院を受診して頂くのが基本ですが、月に2回の訪問医に主治医意見書の作成 薬の処方をして頂くことも可能です。	利用者は、協力医を主治医として選択し、月2回の往診を受けている。訪問看護ステーションと連携し、適切な支援を行っている。週3回透析通院の利用者は、受け入れ医療機関と情報共有、連携しながら支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には絶えず情報を伝え 指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療との連携を図り、速やかに回復出来る支援を行ってまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期は取り組んでおらず、今後の課題としてまいります。	契約時に、看取りは行わないことを本人・家族に説明している。重度化により、事業所で出来るケアに限られる事もあり、契約時点で転居先について話し合い、特養等の入所申請も勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講習会に積極的に参加をして、応急手当や初期対応の訓練のスキルアップを図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 夜間の対応も含め避難訓練を実施しております。またマニュアルの活用も行っております。	消防署の指導の下、カーテン、暖簾、床のシート等全て防災性にしている。年2回の法定訓練は計画書及び実施内容を消防署へ書面で報告している。様々な災害を想定し、全職員で避難誘導を行う講習会を予定していたが、コロナ禍の今、実施できていない。	コロナ禍で難しい状況ではあるが、昨年に引き続き、全職員で防災意識の強化を図りたい。利用者と共に安全に避難をするため、職員が実践力を身に付けられるよう、定期的な訓練実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴をモットーに、相手を否定しない介助を行い、同性介助が行えない場合は、ご利用者様の了解を得て、介助を行ってまいります。	共用の場所と浴室の脱衣所が続いており、入浴時は見えないようにカーテンを引いている。男性職員が多く、勤務シフトによっては、同性介助が難しい時もあるが、入浴介助やトイレ誘導等、利用者の気持ちを察した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の困難なご利用者様には時間を掛け、対応していきたいのですが、繁忙時に介護が重なってしまうと時間を掛けられないのが現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿って介助するにはなかなか対応できないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時 入浴後などのご利用者様のご要望に沿って整容をおこなっております。理美容に関してはコロナウイルス禍でなかなか対応が難しくなっていますがご家族様のご協力のもと、ご満足して頂けるよう努力しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギー 持病 嗜好に合わせたメニューの提供を行っております。	食材配達サービスを利用し、味付けや量の配分は職員が行っている。透析治療中の利用者には、水分摂取量や量、食事時間などに留意しながら支援している。コロナ禍で外食に行けない代わりに、テイクアウトで食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の情報を管理し、習慣に応じた支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日2回の口腔ケア 義歯の夜間洗浄をおこなっています。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の周期を各々で管理し声かけを行っています。また、水分補給後などに確認をさせていただいています。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、職員間で共有しながら声掛けとトイレ誘導を行っている。利用者によっては、トイレの使用時間が長い場合もあり、他の利用者は、一時的にポータブルトイレや隣りのユニットトイレで対応することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訴えの乏しいご利用者様には特に注意を払い、声かけを行っています。また日常的に腸内活動の運動を取り入れたり、便秘薬の適応を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のタイミングで入浴をして頂くのは職員の配置上、なかなか難しい場合もありますが毎日入浴時間があるため極力対応できるよう支援しております。	週3回、午後の入浴を基本に、利用者の希望や状態に合わせて対応している。重度の人にはシャワー浴で支援するが、事前に浴室を暖め、体も十分温まるよう配慮し、個浴でゆっくりと湯舟に浸かりたい人は、見守りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のニーズに合わせ、休息していただいたり、安眠して頂けるよう努力しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報の共有を図り、誤薬がないよう、また薬の効き過ぎなどの観察を怠らず、症状の変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のADLに合わせた役割分担を持っていただくことにより、気分転換等に役立ててまいります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス禍で外出が困難なのが現状です。またご家族様の面会も控えていただいているのが現状ですが、ご家族様が不安にならないよう情報提供は怠らないようにしてまいります。	新型コロナ感染予防対策として、外出を自粛している。庭で外気浴をしたり、夏には、たこ焼きやスイカを食べながら盛大な花火大会を開催し、気分転換を図っている。新型コロナ収束後には、近くの道の駅や季節の花見など、外出支援を再開する予定である。	

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設では通帳 印鑑 現金などはお預かりしておりません。必要時は代金を立て替え後日請求しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご相談のもと、利用者様のご要望にお応えしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備、また四季を感じていただけますよう季節に合わせた花や飾り付けを行っています。	隣接する1号館と2号館は、玄関は別々であり、行き来することが利用者のリハビリになっている。共用場所の真ん中には、食事をはじめ多目的に使用する大きなテーブルが設置されており、家庭的な生活空間となっている。庭の野の花や大きなカボチャを飾り、ハロウィン気分を盛り立てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の交流は大切にさせて頂いておりますがその時の気分により、おひとりになりたい時などは居室で休んで頂くことも対応しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛着のありました家具等はご家族様と相談のもと施設でもご利用して頂いております。	居室には、馴染みの家具や身の回りの物を持ち込み、暮らしやすいように安全に配置している。また、居室扉に名前を張ったり、ぬいぐるみを置くなど、利用者が自分の部屋を間違えないよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何度も間違えたり困ってみえる箇所などはぬいぐるみを置いたり、張り紙などをして対応しております。また、開き戸の取っ手を工夫しおひとりで開けられるなどの工夫しております。		